

気仙沼市新庁舎建設設計に係る  
公募型プロポーザル審査結果報告書

令和4年3月

気仙沼市新庁舎建設設計者選定プロポーザル審査委員会

## 1. 設計者の選定（審査結果）

最優秀者 久米設計・国際航業 気仙沼市新庁舎設計共同企業体  
（優先交渉者）

次点者 安井建築設計事務所・オオバ・気仙沼建築設計事務所 設計共同企業体  
（次点交渉者）

## 2. 選定概要

### （1）選定方法

公募型プロポーザルを採用し、審査は1次審査及び2次審査の二段階方式で行いました。設計者の選定に当たっては、学識経験者、行政機関職員で構成する気仙沼市新庁舎建設設計者選定プロポーザル審査委員会（以下、審査委員会という。）を設置し、審査委員会による評価により設計者を選定しました。

なお、審査は公正かつ厳正なものとするため、1次審査及び2次審査共に、参加者名は匿名で行いました。

### （2）1次審査

5者から参加表明書等の提出があり、プロポーザル審査要領に基づき、事務所及び配置技術者の実績等について審査を行いました。

その結果、2次審査の技術提案書等の提出、プレゼンテーション及びヒアリング要請者として全5者が相応しいことを確認し、選定しました。

なお、1次審査の評価点については2次審査には反映しないことを確認しました。

### （3）2次審査

1次審査で選定された5者から提出された業務実施方針と技術提案書についてのプレゼンテーション及びヒアリングを実施したうえで、プロポーザル審査要領に基づき審査を行いました。

審査委員会において、業務実施方針、課題テーマに対する技術提案及びヒアリングの内容について、厳正かつ慎重な審議を行った結果、最優秀者（優先交渉者）及び次点者（次点交渉者）を選定しました。

### 3. 審査委員会

#### (1) 委員

区 分	氏 名	所 属 団 体・役 職 名 等
委員長	石井 敏	東北工業大学副学長・建築学部長 教授
副委員長	赤川 郁夫	気仙沼市副市長・気仙沼市新庁舎建設委員会委員長
委員	丸谷 浩明	東北大学災害科学国際研究所副研究所長 教授
委員	矢口 哲也	早稲田大学理工学術院 教授
委員	小野寺幸恵	気仙沼市市民生活部長・気仙沼市新庁舎建設検討委員会委員

#### (2) 審査委員会開催経過

	日時	議題
第1回	令和3年11月23日	・気仙沼市新庁舎建設設計者選定プロポーザル要領について ・評価基準書について ・その他
第2回	令和3年12月22日 ～24日	書面開催 ・1次審査の結果について ・その他
第3回	令和4年3月6日	・2次審査 (プレゼンテーション及びヒアリング) ・最優秀者、次点者の選定

### (3) 審査

審査委員会は、「提案内容（設計案）」ではなく「設計者（人）」を選ぶプロポーザル方式であることを念頭に、気仙沼市新庁舎建設設計を行うにあたり、柔軟かつ高度な発想力や設計能力、豊富な経験を有する設計者を選定するため、1次審査を経て、業務実施方針及び次の課題テーマについて提案書の提出を求め、プレゼンテーション及びヒアリングを踏まえて評価を行いました。

#### 【2次審査】

評価内容		配点
◆実施方針・実施手順（業務の理解度及び取組意欲）		10点
◆取組体制・人員配置・配慮事項（業務への取組体制，担当チームの特徴，設計上特に配慮する事項等について）		10点
課題テーマ	課題1 建物配置を計画するうえでの留意点と解決策【配置計画及び配置に関わる造成計画】	20点
	課題2 市民利用・市民協働と、周辺環境との配慮・調和を考慮した建築計画を実現するうえでの留意点と解決策【配置および施設計画】	20点
	課題3-1 利便性・快適性・可変性に配慮した建築計画を実現するうえでの留意点と解決策【施設計画】	20点
	課題3-2 持続可能性およびライフサイクルコスト低減に配慮した建築計画を実現するうえでの留意点と解決策【環境配慮・コスト低減】	
	課題4 当該敷地において市民の安全・安心を支える防災機能が充実した庁舎を実現するうえでの留意点と解決策【造成計画及び建築計画】	20点

#### 【講評】

本プロポーザルは、難しい条件の敷地における造成と建築の計画が求められるものでしたが、2次審査では市長からのメッセージに応えるべくイノベーション満載の5つの提案がプレゼンテーションされました。ヒアリングを経ての審査と評価の議論の中で、特に焦点が当てられたのは、造成計画と建物の配置計画、それに伴う駐車場の配置と歩車分離の考え方、メインエントランスの位置、市民とのつながり（利用・協働）の建築的なあり方、そして防災に対する考え方でした。各提案でその対応が分かれた大きなポイントでもありました。防災庁舎として確実な安全を確保する一方で、日常の中での庁舎と市民のつながりをどのように考え、どのような場としていくのか、本質的な議論となりました。言い換えれば、何十年、何百年に1回起こるか起こらないかの「非常時」と「日常」とをどのように考え、計画に反映させるか、そのバランスも議論されました。

各提案を全員でレビュー（提案のポイントの確認）をしたのち、各委員が点数と順位をつけて投票を行いました。結果的には審査員全員が上位2者のいずれかを1位として点数を付けて投票していました。上位2者に絞ってあらためて内容を確認し、議論した結果、わずかな点差ではありますが、その点数（順位）を持って最終結果とすることが十分妥当であるとの合議に至り、1位を最優秀として、2位を次点として決定しました。

### 【最優秀者（優先交渉者）】

会社名 久米設計・国際航業 気仙沼市新庁舎設計共同企業体

（プレゼンテーション：午前10時00分～）

各課題に対して「まちかど庁舎」「コミュニティ庁舎」「アメニティ庁舎」「防災拠点庁舎」とコンセプト付けして提案をまとめあげました。南面道路、南東角に「まちかどひろば」を同レベルで設け、そのレベルから直接市庁舎にアクセスできる構成とした点が特徴的でした。

市庁舎と市民を、物理的に、そして心理的にも近づける上では大胆ではあるが、きわめて自然な発想でもあり、意欲的な提案は評価されました。同レベルは浸水の可能性があり、それをどのように考えるかが議論となりました。庁舎の一部が浸水しても設備の工夫等で庁舎機能への影響が抑えられること、より高いレベルに誘導する複数のルートがあること、日常的に庁舎と市民がつながっていることが逆に災害時に生きてくることなど、そのメリットを評価いたしました。駐車場への誘導方法には懸念点もありましたが、来庁者と公用車との分離、歩車の分離などは高く評価されました。その他の計画全般においても丁寧に検討され、またバランスが取れた提案になっていました。ヒアリングにおいても、提案に対する強い思いと意思、質問に対する的確な回答も信頼感を与えるものでした。

一方、災害時の災害対策本部の具体的な運用状況等についてはイメージが乏しく、なお改善の余地があること、ツツジの植栽の是非、構造計画や食堂等の地域利用の空間・機能のあり方、西側道路の災害時の活用方法とそれにあわせた整備のあり方については、今後の計画の中で市側と丁寧に議論しながら詳細を詰めていく必要性も確認しました。総合的な判断のもと、最も優れた提案であることと評価いたしました。今後、市の意向を十分に汲み取りながら、またあわせて「利用者」（職員、市民など）の声をしっかりと拾いながら、計画・設計を進めていただくことを心から期待いたします。

### 【次点者（次点交渉者）】

会社名 安井建築設計事務所・オオバ・気仙沼建築設計事務所 設計共同企業体

（プレゼンテーション：午後3時00分～）

まち、ひとをつなぐ、未来を奏でる庁舎としての提案でした。南東角に「ステップガーデン」を設けて、大階段で広場（TP+3.0）とエントランス（TP+8.0）に誘導する点が特徴的です。庁舎と市民、地域を意欲的につなげていこうとする点や、庁舎で奏でられるアクティビティのイメージ提案、気仙沼の文化を意識した計画やバランスのとれた全体計画は高く評価されました。

一方で、浸水を意識しての計画であることは十分理解できるものの、それが提案の自由度に制限をもたらしてしまった感もあります。大階段が市庁舎との物理的・心理的な距離を生み出してしまいうこと、レベル差があることで広場の日常使いが難しくなる点、コンパクトなプランニングゆえにゆとりの確保と、今後の計画での柔軟なプランニングへの懸念、会議室のボリュームや配置、来庁者駐車場が北側に延びている点なども課題点としてあがりました。

全般的に落ち着きのある、各提案内容についても破綻のない堅実な提案として高く評価されましたが最優秀には及ばず次点となりました。

## D社

(プレゼンテーション：午前 11 時 00 分～)

街の風景となる庁舎を目指し、周辺環境に配慮した緑化計画が特徴的で、魅力ある景観創出を意識した提案でした。南東角の「まちかどパーク」、「こみちの森」、「おらほ広場」とつながる構成も魅力的でした。防災面での提案や、大スパンによる広く柔軟性のある執務空間も評価されましたが、アプローチやエントランスのわかりにくさ、駐車場から庁舎エントランスへのアプローチ、災害対策本部まわりのスペースや機能のあり方で課題もありました。特徴ある建物への植栽（うみ・やまテラス）や大階段が大きな共感を得るまでには至りませんでした。

## A社

(プレゼンテーション：午後 1 時 00 分～)

「海と生きる」気仙沼市民を先導する市庁舎を目指した提案でした。シンボルとなる市庁舎デザイン、オープンな議場、立体駐車場、建物を低層にする提案は独創的でした。しかし、立体駐車場にしてコンパクト化を図ったメリットが敷地の利用、配置計画に生かされなかった点が残念でした。「街角テラス」からのアクセスを意識しながらも庁舎には北側からのアクセスとなってしまったこと、北側に設けられた広場の視認性や活用面での課題、東側道路をアプローチ道路とすることでの周辺地域への影響なども懸念としてあがりました。

## E社

(プレゼンテーション：午後 2 時 00 分～)

これからの気仙沼の「確かな拠点」づくりを目指した提案でした。大きな屋根（庇）と連続する広場の設置は、空間的には大きな魅力と評価されました。一方で、日常的な市庁舎や提案した広場空間とのつながりがつくりにくいこと、駐車場を庁舎手前（南側）に持ってきたため、庁舎の視認性に影響を与えるのではないかと課題もありました。また、駐車場が建物を囲む形となり、車歩分離の点でも懸念がありました。災害時の防災広場を含む屋外空間利用についての課題、7.5×8.0mのスパンに影響される執務空間や会議室の配置にも課題がありました。

結びに、いずれの提案も ZEB Ready の実現と大災害にも耐えうる安全安心の計画提案でした。気仙沼市および当該敷地の歴史や地理を深く掘り下げて、未来の気仙沼市の姿を本気で考えた末の真摯な提案として受け止めました。本プロポーザルに参加いただいた各社に於かれましては、貴重な時間を費やし真摯に努力頂いたことに、心から敬意を表するとともに感謝を申し上げ、講評として報告します。

気仙沼市新庁舎建設設計者  
選定プロポーザル審査委員会  
委員長 石井 敏